

No. 1300

難産のスタート“大平丸”

党三役の人事をめぐってもめ続け、首相指名の投票は予定より一日遅れた12月7日、やっと行なわれた。先に自民党の総裁に選ばれた大平正芳氏は衆参両院本会議で投票の過半数を獲得、第一次伊藤内閣以来68代目の首相となった。

大平首相は党三役として幹事長に斎藤邦吉、総務会長に倉石忠雄、政調会長に河本敏夫の各氏を決め、ただちに組閣本部を設置。新内閣の主要閣僚として蔵相に金子一平氏、外相に福田内閣からただ一人の留任園田直氏。

通産相に江崎真澄氏らを起用した。首相は「清新で強力な内閣」をめざし、新人を12人も登用したが、40歳代は厚相の橋本竜太郎氏ただ1人。派閥均衡、中堅実務型といえる。総裁選予備選挙のしこりが色濃く残る党内、大平丸の船出は前途多難のものとなった。

大空に夢のせて

— 群馬・藤岡 —

古くから、日本各地に伝わる種々な凧。榛名山、赤城山など上毛三山の山脈に囲れた群馬県藤岡市、互で知られるこの町にも冬が駆け足でやってきた。植原英治さん47才、極く普通のサラリーマンだが凧にとりつかれてから8年になる。植原さんはこれまでに数えきれないほどの凧を作ってきた。たこを作り初めたことについて植原さんは「その頃夜の遅い仕事に従事していたもので土、日曜になると川原に出るのがのんびりしてみたいことが原因だったと思う」と語る。

凧は骨組に竹を使うことが一番多い。軽くて弾力性のある竹は凧に合っている。凧の命は糸目にある。凧がうまく凧に乗るかどうかはこの作業のできいかんによってきまる。植原さんは時々、近所の子供たちに凧の作り方を教える。今日は凧の中で一番簡単なくにゃくにゃ凧を選んだ。遊びの中にいつのまにか消えてしまった凧、その凧を再び子供たちがみえない凧をさがしながら凧の神に願いを込めて走る姿をいつも描く。凧揚げの醍醐味は一本の糸を唯一の絆にして凧との対話にある。糸のたぐり加減によって凧は微妙に反応する。そして心が通じ、意のままになった時、凧はあたかも生きものの様に空を舞う、大空に自由な夢をのせて。